

脱炭素化に向けた産業界の取り組み

モデレーター：山地 憲治 公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 副理事長 研究所長

パネリスト：多和 淳也 株式会社 JERA 経営企画本部 企画部長

深野 行義 一般社団法人 日本ガス協会 企画ユニット 環境部長

楠本 正治 パナソニック株式会社 品質・環境本部 環境経営推進部 部長

2020年10月の所信表明演説の中で、菅総理は2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した。アメリカではトランプ大統領からバイデン大統領へと政権が交代し、地球温暖化対策への取り組みが大きく変わることが予想される。EUでも新型コロナ禍による経済ダメージからの復興において、グリーンリカバリーを掲げるなど、世界全体で「脱炭素」に向けた動きが加速してきている。

我が国の産業界や企業においても、これらの環境の変化を受けて、2050年のカーボンニュートラル社会・脱炭素社会への取り組みを今後の経営の柱とする動きが出ている。そこで、本パネル討論では、脱炭素社会に向けた企業や団体の取り組み・ビジョンなどについて紹介して頂く。

発表概要

■株式会社 JERA 経営企画本部 企画部長 多和 淳也

JERA ゼロエミッション 2050

2050年に向けたCO₂ Zero Emissionに向けたJERAの取り組みと、日本の電力システムに適したカーボンニュートラル実現に向けたロードマップについて説明する。

■一般社団法人 日本ガス協会 企画ユニット 環境部長 深野 行義

ガスのカーボンニュートラルチャレンジ 2050

～2050年ガスのカーボンニュートラル化による脱炭素社会への貢献～

- ・ ガス業界は「2050年のガスのカーボンニュートラル化」に挑戦し、将来の脱炭素/カーボンニュートラル社会の実現に貢献することを昨年11月に公表。
- ・ 具体的には脱炭素社会の実現に至るトランジションの取り組みとして「徹底した天然ガスシフト・天然ガスの高度利用」により確実なCO₂削減を進めつつ、水素やメタネーション等のイノベーションにより「ガス自体の脱炭素化」を進めていく。
- ・ ガス業界はこのような脱炭素化に加えて、レジリエンス向上や地方創生など、様々な社会的課題の解決に貢献していく。

■パナソニック株式会社 品質・環境本部 環境経営推進部 部長 楠本 正治

パナソニック環境ビジョン 2050 の取り組み

パナソニックが環境ビジョン 2050 に込めた、2050年に目指すカーボンニュートラルの姿や、その実現に向けた具体的な取り組みを、自社工場や商品・サービスなどの実例を交えて説明する。

パネリスト略歴

■株式会社 JERA 経営企画本部 企画部長 多和 淳也

1995 年に早稲田大学政治経済学部卒業後、東京電力(株)入社。支店勤務を経て、IT ベンチャー企業へ出向し、事業戦略の企画立案に従事。その後、豪州のウィートストーンプロジェクトなどの LNG 上流事業の立上げや、各国の LNG プロジェクトからの LNG 調達業務などに携わる。東日本大震災以降、株式会社 JERA の設立に携わり 2016 年 7 月に同社 経営企画本部 企画部長就任。経営基盤の整備や全社戦略立案業務等に携わり現職に至る。

■一般社団法人 日本ガス協会 企画ユニット 環境部長 深野 行義

- ・ 1987年3月京都大学大学院工学研究科精密工学修士課程修了
- ・ 1987年4月大阪ガス(株)入社
- ・ 2011年4月より大阪ガス(株) 技術戦略部長
- ・ 2013年4月より(株)ガスアンドパワー 常務取締役
- ・ 2016年4月より大阪ガス(株) エンジニアリング部長
- ・ 2018年4月より日本ガス協会に出向、環境部長、現在に至る。

■パナソニック株式会社 品質・環境本部 環境経営推進部 部長 楠本 正治

1988 年に東京大学工学部精密機械工学科卒業、松下電器産業株式会社(現、パナソニック株式会社)入社。以来、同社 生産技術本部にて、半導体、光ディスク、ディスプレイ、基板実装、電池など様々な分野の内製生産設備の開発設計から量産導入に従事。2014 年から同社 エアコン工場勤務を経て、2016 年から同社 品質・環境本部にて、工場 CO₂ 削減や環境長期ビジョンの策定などに携わる。2020 年 4 月に環境経営推進部長就任、現在に至る。